

テラヘルツ療法 (陶板浴)



谷 正彦教授

全ての物質は電磁波を発生して居るといわれています。その電磁波には、波長が短くてエネルギーが高いいわゆる「光」(ガンマー線やX-線、紫外線、可視光線など)です。一方、長い波長はエネルギーが低く、いわゆる「電波」と呼ばれるもので、携帯電話や電子レンジ、テレビ、ラジオなどです。

テラヘルツ波は、この電磁波の「光」の直進性と「電波」の透過・吸収性の両方の性質を持っています。そして、可視光線より長い波長の赤外線に含まれ、温度を高め、成長・育成を促したりします。プラスチックや紙、コンクリート、ガラスなどを透過しますが、水に吸収されやすく、DNAやタンパク質・酵素・ミトコンドリアなどの有機物に吸収され成長を促進します。この波は、1950～70年代にNASA(アメリカ航空宇宙局)によって発見され、生命の根源である「育成光線」と言われています。

《テラヘルツ波が病気を治すメカニズム》

第一は、活性酸素の酸化で電子を失った組織を還元する働きがあります。身体に含まれる水にテラヘルツ波が照射されると、水素電子にエネルギーを与え、**還元力**を獲得します。そして、水は活発な運動を得て、水分子のクラスター(群れ)を小さくして血流を改善します。そして、新陳代謝やデトックス(解毒)を活性化し、リンパの流れも改善し免疫力を高めます。

第二は、赤外線としての**熱線**が出ることです。透過性が高く筋層部の微細血管にまで達し循環改善をすることです。そして、ヒートショックプロテインで傷付いた細胞を修復します。

第三は、体温上昇で**ミトコンドリア**の働きを活性化し、からだの耐久力と筋力増強に役立ち、同時に蠕動運動がよくなり快便となり、また深部体温差による良眠が得られます。

第四は、テラヘルツ波は、アポトーシス(細胞の自然死)を促進し、**ガン細胞増殖**を抑えます。特に、乳がんや頭頸部がん、前立腺がんなどの表在性のがんに適応が広がっています。さらに、ガン等の痛みに対し、脳内麻薬エンドルフィンを分泌して痛みを緩和します。

第五は、生活習慣病など慢性病の糖尿病や認知症、パーキンソン氏病、膠原病、腎臓炎、高血圧、心臓病、進行性筋萎縮症などにも期待されています。

2016年に福井大学×東京大学が『テラヘルツ波が拓く素粒子物理学』と題し、文部科学省内で特別展示会が開かれました。福大の『遠赤外領域開発研究センター』谷正彦教授(上写真)はテラヘルツ波の第一人者です。



*陶板浴の施行時には、脱水予防のために**水分補給**を十分に摂ることが重要と、仰向けとうつ伏せの姿勢を取ることが重要です。